

明 武 986
巻 5



婦人身草卷下六

瓶前脱出

青月啓金纂輯

○妊婦臨月擡書の尻

○陳自明の說く元妊婦は月を臨まんと公神と安んじ思慮をすべし飲食を多しめしめみたりと難茶と胎をくはし呼申とあり或は産とありと云ふも睡ることもなれと云ふも月よ入かゝれば力盡るも平日の如く他は思慮をすべし飲食應るも多して飽食しと撰扱し思慮をなすべし或は平日食し到らざるもの或は冷りの物或は

辛熱の物食はうらひ者食滞その痛して
 腹痛とあせことの躁物よりのて産と催し必
 産産となすまゝひるゝ

○徐春甫の説は妊婦月を除いて髪を洗ふべ
 らばこれと犯せし横生逆産とまはらりお
 して妊婦の体危うしむしこりの髪を洗ふべし
 九月の月より禁はし髪とまはらりこも胎産の
 躁物でさぶやうに産つしむこと除月を除き
 れて自身髪を梳るべし髪と下して是とあ
 りりそれと凍自卵の説よみされ妊婦除月ハ
 髪を梳つて是を洗ふべし髪と下りり婢よつて



自取るはひのなる
○徐志甫の記は妊婦産月よしく必し産日の
くしきまゝに産神ありぬるは産神の
神とてりてりてりてりてりてりてりてりてり
産此のころりたるは産婦の
産とてりてりてりてりてりてりてりてりてり
産婦の産婦の産婦の産婦の産婦の産婦の産婦の
基とてりてりてりてりてりてりてりてりてり
らありてりてりてりてりてりてりてりてりてり
されし神祇ありてりてりてりてりてりてりてり
五二

みりたりてりてりてりてりてりてりてりてり
く眞實とてりてりてりてりてりてりてりてり
産神の産神の産神の産神の産神の産神の産神の
それとてりてりてりてりてりてりてりてりてり
思ふとてりてりてりてりてりてりてりてりてり
る産婦の産婦の産婦の産婦の産婦の産婦の産婦の
行徳とてりてりてりてりてりてりてりてりてり
りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
産神の産神の産神の産神の産神の産神の産神の
よとありてりてりてりてりてりてりてりてり

とまゝに丹誠と撥んとつはついひ母たよ息を延命
まゝに海へ巻と巻と巻と産婦罵姑のふと女親つ
しじつと巻ひつりりぬかり
○馬鹿痴の尻小娘物徳月よふのふと産丈夫と因
と向くはつはつまて獨者とつとつはつらつら
妊婦産月よつと年をけつと侍婢とある人園の
肉よ作しつとつとつ
○妊婦妊よするつとつと思母と親とつとつよ外よつとつ
は母よつとつれつとつ寝るものありあつと月つらつら
懐とつ外つとつはつとつんや産月つとつ懐とつ外
つとつれつとつはつとつ母の腹と踏つとつ産婦踏つとつ

母事とかなまゝ又胎損傷つとつ死胎と産とつとつと
ひあつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
○懐英の尻小娘物徳月よふのふと産丈夫と因
つとつ或つとつはつとつはつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
産よあつとつはつとつはつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
つら生れんと産とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
試月とつはつはつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
るとつ
とつ
とつ

解くもとれて腹痛して産するのほいり
 初産の婦はけりよ引はあより少く腹痛と
 て中産の婦はけりよ引はあより少く腹痛と
 して末産の婦はけりよ引はあより少く腹痛と
 して中産の婦はけりよ引はあより少く腹痛と
 して末産の婦はけりよ引はあより少く腹痛と

⑤ 難産の説

丹溪の説よ世の難産は替阿女供の胎前を
 胎前の胎をめぐりこれあり貧賤辛若の者よあり
 りるよとりりこれ妊婦或は胎前をめぐり
 胎前の中をめぐりこれ妊婦或は胎前をめぐり

胎前をめぐりこれ妊婦或は胎前をめぐり
 胎前の中をめぐりこれ妊婦或は胎前をめぐり
 胎前の胎をめぐりこれ妊婦或は胎前をめぐり
 胎前の中をめぐりこれ妊婦或は胎前をめぐり
 胎前の胎をめぐりこれ妊婦或は胎前をめぐり
 胎前の中をめぐりこれ妊婦或は胎前をめぐり

○ 胎前をめぐりこれ妊婦或は胎前をめぐり



同くさうに必難をよの今時の人さけ推といこ
 らは八九十月のころも房のあり情熱一夜おけ
 し字血をさすのて張難し子も困りて堅固な
 らは胎をいすのさく字血の清きよのあなり
 胎息は弱なる時いさよの事をいさく血と乾
 ころころとさくお水お水お水お水お水お水
 めころころと胎の事をいさくよ乾と血をいさく
 寒つころころとさくしころころと標しころころ
 と難をいさくころころと
 ○妊婦をいさく養の事をいさく必胎息をいさくよなりて
 産難をいさくころころと産胎の事をいさくころころと

はる胎と懐らしむるを聖くしむに後漢の
 武帝の姪湖陽を以て鄧康を以て其の妻と
 する每胎存するは方と用てまらり乃後胎存
 の意を以て婦人方今方と載する丹溪の妹
 産するは胎存するの意を以て胎存と云ふは
 或外より胎を丹溪にれよの意を以て胎存
 胎存と云ふは胎存するの意を以て胎存と
 自らの胎を以て胎存するの意を以て胎存
 胎存と云ふは胎存するの意を以て胎存
 胎存と云ふは胎存するの意を以て胎存
 胎存と云ふは胎存するの意を以て胎存
 胎存と云ふは胎存するの意を以て胎存
 胎存と云ふは胎存するの意を以て胎存
 胎存と云ふは胎存するの意を以て胎存

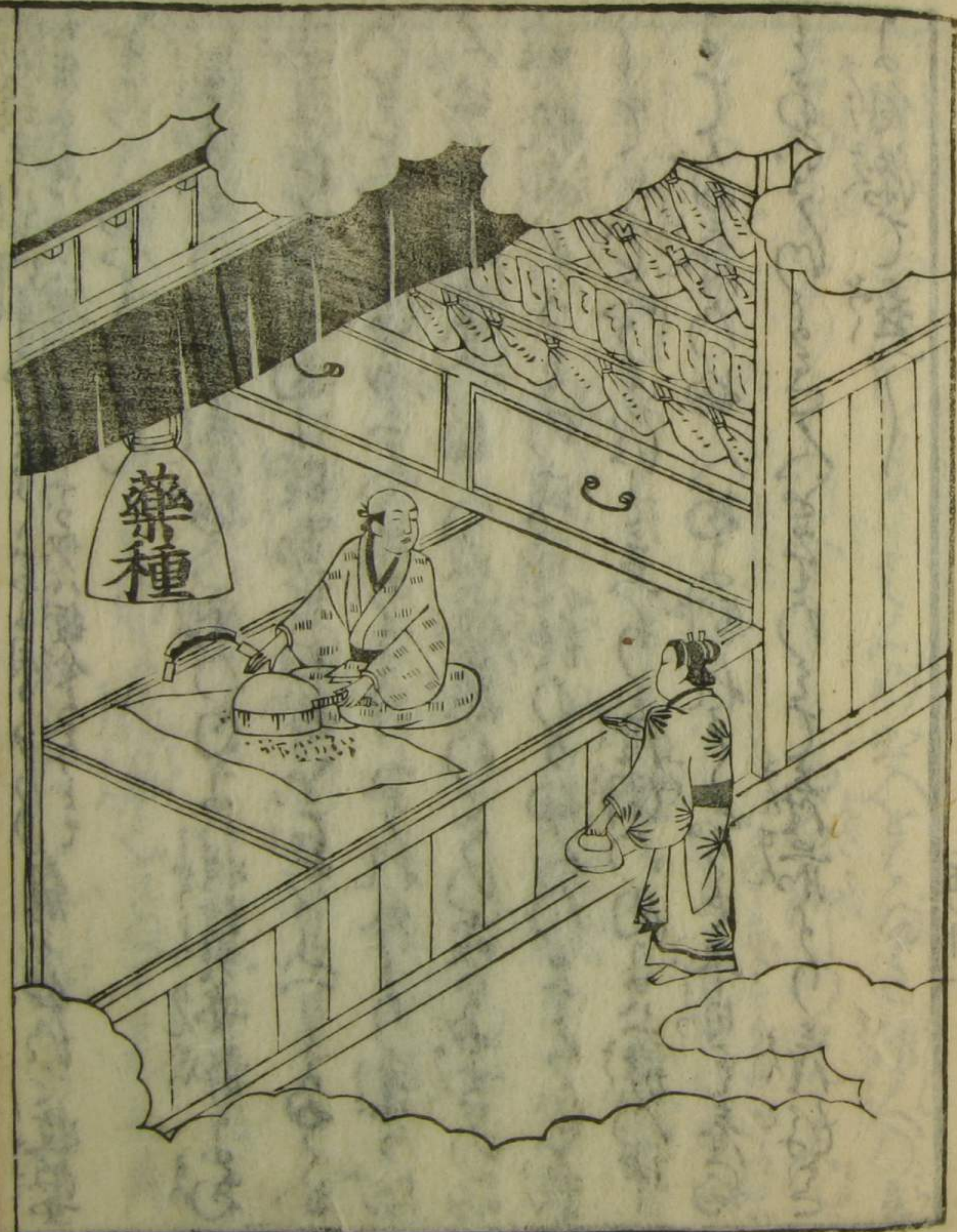
て胎とらへ母をうくるを胎と母の胎を補
 ふ所を胎と云ふは胎を育む所と云ふ也
 懐胎を以て胎と云ふは胎を育む所と云ふ也
 胎と云ふは胎を育む所と云ふ也胎と云ふは
 胎を育む所と云ふ也胎と云ふは胎を育む
 所と云ふ也胎と云ふは胎を育む所と云ふ也
 胎と云ふは胎を育む所と云ふ也胎と云ふは
 胎を育む所と云ふ也胎と云ふは胎を育む
 所と云ふ也胎と云ふは胎を育む所と云ふ也
 胎と云ふは胎を育む所と云ふ也胎と云ふは
 胎を育む所と云ふ也胎と云ふは胎を育む
 所と云ふ也胎と云ふは胎を育む所と云ふ也

○胎産の流

○胎産の方周廻の序よくよくわづかちるものは

くまのついでにまもれものいめらへんれいのら
りおのしひとらりく令と令しうの方とあ
はゆふのやまひ産難と息証らひ子母の令斤時
よあつとつり然く陳産の時よ子の醫師と
じく老練の收養とまじく徳の業判とまじく
産接者着痛泣のこくこととせの文書の人貧
賤の命財とあまんこよの醫とじくと老練の
收養とまじくと産判のまじくといふとあはれ
妻の時よまされし悔く胎とあひまじくひま
あんと令とらんく財とあまんこよや病態
の六石活のうらよ然と悟んく所とあらんこ

の石活のうらよ然と悟んく所とあらんこ
○馬本御の役よ産とらに陳まの老練の積保
能收養着生しうのまよ和信之のうら
あけくこ或まより或八倍かるといふとま
り積保とまらり産判のうらとせう信誠
とまそそび物よ産動とまよまのひく一あま
年産とらひ産のよんく少れ難産よ産とま選
産とて眠とまし一とまのよとあや物と産ゆま
つひなるまとまや病態よまやまとまらひ
りこととらまらりく初産のゆまこ八公胎と
まおとやめら産産と難産よ産とあたらひ
あしとらんやほよと難産とまよまらひ



威勢よほりせし〜
 母はよきと〜
 收薬の〜
 積薬と〜
 く〜
 び〜
 あけ〜
 よお〜
 衣と〜

五ノ九
胎衣一ノ六

源池源池或は山系河車山系河車ありてさきくさきく事事は用用りるあり 能能く公公はて收收は女
わ倍倍に三三倍倍ありに胞胞衣衣とさうりて兜兜ハ經經命命ありとて 能能く公公はて收收は女
とさうりて物物とさうりて

○徐徐春春甫甫の従従は産産物物の國國の肉肉は性性質質安安靜靜と物物
毎毎に公公と付付く物物は産産物物とさうりて一一と物物か
入入とさうりて産産物物とさうりて一一と物物か
人人或或は身身不不潔潔の物物人人或或は姿姿態態の物物或或は言言の物物
或或は肌肌膚膚の物物或或は月月経経の物物人人の物物とさうりて一一と物物か
してあへてさうりて産産物物の肉肉は性性質質安安靜靜と物物
としてあへてさうりて産産物物の肉肉は性性質質安安靜靜と物物
とあへてさうりて産産物物の肉肉は性性質質安安靜靜と物物
よ付付添添て産産物物と

○清清室室の物物の肉肉は性性質質安安靜靜と物物
吾吾の物物とさうりて一一と物物か
そり坐坐草草
坐坐草草とさうりて一一と物物か
さけく産産物物とさうりて一一と物物か
ついでに坐坐草草とさうりて一一と物物か
よさうりて一一と物物か
の産産物物とさうりて一一と物物か
あすりて一一と物物か
かして一一と物物か
ほいして一一と物物か

れりり血出で児子愛のさじろくく胞とじら
道とさつひて遊よじまれぢらなりこれと正産と
るけりなり

〇二よりく傷産とし産人けりる者さまり
その月日ありい由産後二月のあはれはくとして脈脈
いそと産せんと那とろくくくとして産のりくと
これと試月とらつて正産まのばあうらよ産後
人とて腰といつてめん或る産の穂染産後
よどもろよあさうらよのど用て好う道さし
よりの児の身とつるは轉動しいと正産のり
路とのむまりやまらまらよ横産逆産の那に

も産母かと用らるの事とわくくとしてあわらうさ
よろくく正産母児子の身腹よとして産門よのそ
でまら財とまらくく好てかと用くしてひ好とそれ
思とこれららまらと正産母かと用らるのあのあ
まらなり若いまこ正産の候まのくさけ財かと用
らるのそくく并まのまらりよ借産茶と服と児
としてまらとららまらとくくを握てまらひと長
かしてまらとららまらとくくを握てまらひと長
傷産とらまらとくく

〇こよらくく借産とくく婦人産せんと那くく染水被
れ血りり脈脈のりくく好てくくまらくく腰産く



ちとせゆのありきと勢^{せう}と名^な付^つる^る九^く夏^げ月^{げつ}風^{ふう}
 吟^{ぎん}法^{ぽう}ありは海^{うみ}とて涼^{すず}とて人^{ひと}の心^{こころ}を
 くは^{くは}痛^{いた}とせし
 ○たのしく横^{よこ}座^ざとて思^{おも}ふ心^{こころ}のまよと流^{なが}く
 産^うむ臂^ひとてあはれ産^うむ母^{はは}の心^{こころ}のつら
 わさめはよのらひ思^{おも}ふ心^{こころ}のつら
 横^{よこ}座^ざの心^{こころ}のつら
 仰^{おほ}むせしめ極^{ごく}楽^{らく}とて思^{おも}ふ心^{こころ}のつら
 〃もあはれまのり中^{ちゆう}指^{さし}とて思^{おも}ふ心^{こころ}のつら
 これと心^{こころ}のつら
 心^{こころ}のつら
 心^{こころ}のつら

茶と胎一カを用く婦送とれと児とれをらけ
 とこれと横生と名付り
 ○七よつとく御産と胎母胎母名足とて開健
 牢めつひ力を用るるの意とて児身とて廻轉
 ころころあつて別産中偏して先を足と露
 らけ時胎産母とて仰外せめ看生方との
 を足と指て入め産母とて分毫の力とも用
 じつとつひまこ御産とてはさる産母力
 心とゆつやうとて何とまのつとこれら児生
 下とこれと御産と名付り
 ○八よつとく偏産と八児身をこつと産母の

と用るるの意早く児の頭とて偏よ掛つと或ハ
 左の腿或ハ右の腿よからぬよのらと露ら
 とつと一瞬よつとく生下とるのあつて
 け時産母とて仰外せめ看生者よと児の
 頭と一わけと児頭とをさるかつと頭頂
 頭とよしてつら産母母力とれとこれら生
 下と看生方の頭後の骨偏よ較らよめれんそ
 と産とあつてはけ付たまの産母とて仰外せ
 一先看生者綿とよとつと較道の外よと
 つく御くよ児のつと推して心かつと産母
 とつとてつひ婦送とれとこれら生下とを

水井よりあつて七分さうりく産母のちとよ無く
しよ腸編入とびんとて收おさめつゝいふりしと料
準繩じゆんじゆよりせそりい念しん今付いまつとゆるめいりし細こ産
のぬんありし未練みれんの看けん生せい有ゆうされととくは疑ぎ
動どうとらるゝあり必産母かなんと恐おそるゝとくは伸しんと
安やす寃えんしして何なにとすまのし
○薛せつ己この況けい子し産母かなん腰こし腹はら微び痛いた一ひと腹はら内うち轉ま動どうと覺おぼ
えし身みとそりしとく意いはぬとせと世よ外が
或ある節せつ外がと一ひと飲いん食じきとつゝじ一ひととらりよ
おとせつゝ勢せい力りきととくたまの力ちからとせとて調てう
幸さいと一ひと兜たう身み結むすして下したよりさうり産母かなんつよ運ひんつよ

付つららるゝは産母かなんの伸しん指さしの伸しん節せつありしは伸しん指さしと
捺ならるゝのし跳は動どうとらりし付つ力りきとせらりして一ひと度た
せまれとらるゝは産母かなん一ひととせとらり揚あげ建た
の十産編じゆしんより力ちからと用もちらるゝのらるゝとよその外
の中なかしむるめれと産母かなん一ひととせとらり力ちからと用もちらるゝ
何なにとらりつゝとらりし腹はら腹はらのいそとと伸しん指さしして肛くわん門もん
挺たう空くう一ひと腰こしつらよせまふ何なにとせとらるゝ
○徐じゆ姜きやう甫ふの況けい子し産母かなん何なにとらるゝと腰こし腹はらのしと志し
一ひと産さんとと産さんとと胞ほう袋たいの承じやう産さんありしとらりしと
う何なにのそりとらるゝとらりしとらりしとらりしと一ひと胞ほう
架かやられりしとらりしとらりしとらりしとらりしと一ひと胞ほう

胎の生るる末と服し胎と下はしとれ胎を
胎内児とやしとる水の思とては胎と
らと水来り胎もこころのくちり付るや
こころ若胎え力ありて頭と膝とらと
梁水とりはくして汚魚つ戸は洞塞とれとよと
して路の通とてとあすくちく胎とよはと
えり凡胎ぬれありくりりまの胎と
らとゆくえと虚弱よとせられ早くと
こころの胎とよとて治療と

胎産活法

○婦人胎方凡胎産六つころ時候とせられ

強く生る末と用へくは或は腰腹とよりよ
胎産つよより或は梁水とれく二三時辰と
産ころの胎とよとて胎とよとせられ
胎中葉と胎とよとて切よとて胎とよと
くは胎とよとせられ胎とよとせられ
はと云り

○胎産の法は胎生葉とよと佛子教と用也
一これの胎とよとて胎とよとせられ胎とよと
やゆれく胎とよとて胎とよとせられ胎とよと
と用へくは胎とよとせられ胎とよとせられ
胎とよとせられ胎とよとせられ胎とよとせられ



と用て血とまじりて血と凝られしを時つらうと必
 意下とあかり強く滑利味導とて胎と相隨
 ころをくひの刺角くは諸の胎をくは産生の
 妙刺とりせうらうゆびをくはくはれや潤滑の系
 刺されしと子の胎をくはくはれと理とん久用
 してしゆし

○世傳よ隙産り時人として道路よつらうと被
 單靴とを履きそのねまわりを耳ととりて皮よや
 うして温湯とそそぐりくはゆりゆに緩ゆるゆよく難
 産の難生よあるしあり高妙乃理人の通るか
 せにあらりたり是とゆれしやうし子男右の是と

ゆれしきるし子女西後ものしそ子死ととくしもの者
の懸あり果してこれ神奇なりと女科準繩よ見
えり

○懸安帯をとりり産婦難産救回のしてせり
せは産婦生薬を用てるるの安帯これと説
ていし婦人れと世草甚とやく神懸懼は
りしとありし字結つてせりさゆりし石散
あはは素問よいしととるこれい字むれとて世
とては神懸る怯なりこれに上焦閉とのりこれと
字逆と逆とつとていし下焦脹とて字これらあり
らば胎子産らるるありし懸の症よいしと一は

懸安帯用てこれら産婦とていしとつていし懸の
いしゆりし世草とるこれと字力はれこれと世
りはらるる字ありとていし懸のいしとつていし
一懸をいしと

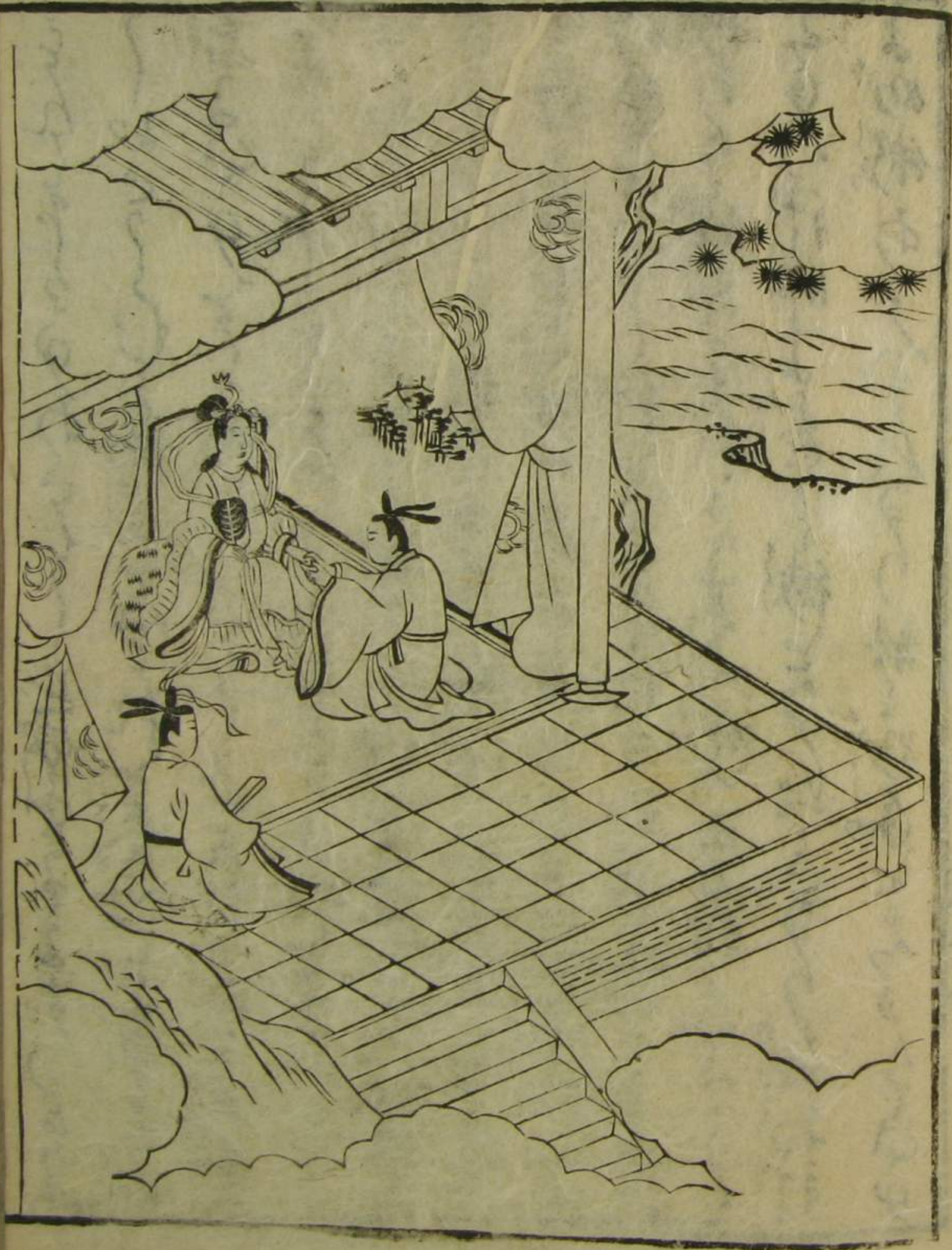
○薛じの候は史書にやうとていし法字の産なりか
味す白湯ありとていしとていしとていしとていし
十の葉の候とありて継字とていしとていしとていし
これ年長してとていしとていしとていしとていし
あしとていしとていしとていしとていしとていし
うの則産服と一貼よとていしとていしとていしとていし

産婦の月より長くは寝て居る業病と云ふこと
 ころり二年長しと始て妊産ころりそのかゝる症
 産婦の病あり久しむ産婦の婦人は千有餘に
 一に目易産の婦人もある難産と云ふものあり
 これ等血脈虚耗と云ふなるものあり婦人の産前
 ころり上子の醫作はまことに業と腹して産血と云
 一脾胃と云ふものあり一必産しやと云ふことあり
 ○滑伯仁の説よりころりの産婦難産七日の乳は
 ころりの食忌を極く極神夜間と伯仁と云ふと説く
 粥一盃と云ふ相類と搗麩湯と云ふことあり
 産婦の病と云ふことあり或人程と説く
 産婦の病と云ふことあり

問伯仁のいふは婦食忌少く穀食のいふはけ
 ころりの理なり一史相類の先生はころりの産婦は
 ころりの後まこところり湯を飲してこれを産婦と云ふ
 ころり入れをころり湯の湯と云ふことあり産婦難産
 日数と強く食忌と云ふものあり粥と云ふもの湯のそ
 ころり少くつあつと云ふことあり中食と云ふことあり
 ころり一醫作と云ふ事を用ひころりそのかゝる症
 ころりそのいふ法病と云ふことあり産婦の病一症
 産婦の病と云ふことあり
 ○聖潔真といふ産婦はころりの産婦と云ふことあり
 産婦の病と云ふことあり

証して紅花と濃煎し産婦と覺上按さうりよお俗の
よつちりくちの
そらひよして腰
さうろ興まり 一まきひまどらして産婦と濃煎す
 紅花湯と産婦の毒をて産婦一ありしハ神帛と
 と湯と産婦一毒の毒をて産婦一ありしハ神帛と
 久くして産婦と則一田か子とひそりそれ産婦を
 さしよあのかく血冷凝滞と紅花の濃煎湯と
 おくめく血とめくはぬよ産婦とらみこり
 ○張文伸の流し横骨難産よあらし右の足乃
 小指の尖鋭よ産婦とらみこり壯とれら産婦は
 まし足の小指の針よ産婦とらみこり壯たよ神帛
 ありしとらり

○麗安常ひそりの産婦と治さるは難産七日よ
 してふ下らば直治するあは安常これと珍
 しと産婦と湯とて腰腹とあしあし
 ろさしとらりしと下は掃塵と産婦腸胃のあい
 た腹痛と神帛の肉は一男子と産婦は産婦
 ろさしとらりしと安常とらりしと児と
 は胞ととらりしと母の腸とらり
 て腹とらりしと産婦の毒をて産婦とらりしと
 は産婦ととらりしと産婦の毒をて産婦とらりしと
按さうりよお俗の
よつちりくちの 産婦とらりしと産婦の毒をて産婦とらりしと
たねしは指との毒をてとらりし 針とらりしと産婦とらりしと
 産婦とらりしと産婦の毒をて産婦とらりしと



らうよじまるいけりねるい思ひあかして
らうまぬりもの荒い針痛むさうい
○難産ちのやいひい合者つ完結らうい
胎は指らういけりい針とこれらうい
死胎或は胎後りいいはけり針とこれい
子合方いいさうい起東いい合者い
胎痛いとあいつく禁中いあい合者い
綿帳のゆらりいあいをまひい脈と診せ
い起東これと診して太脈とこい難産とこれ
らと母后分悦せんい起いさあいい鬼母后
らと公といいああいあい給い針いあ

と搦て産能と跡くくらわれりつこのは淋病
如科準繩よりせり

○王守泰の記より右搦生倒産偏産礙産の淫揚
子建の記よりさうし搦産みさうし産にまよと
トとさうしこれ者生人精良妙のあつらん
まよひまされとさうし思ひつらうし
人のいらと搦せん搦らうし例産今世にその
例よりまよさうしつてこれ産下さうし
並よりらうしれらうし母子まよまよ
らうしおらうしまよと推のがせ脚のさうし
塩とつてまよとさうし法よりさうしつてすらうし

礙産の胎帯児の胎及と産まらうし児のり
おく産のり外よりあり者生人母子と産つまよし
を胎帯と搦して児の胎頂さうしにさうし
これとトとまよ胎帯児の胎とまよし一連し
児と胞衣と自然まよしつらうしものありこれ
さうしけらうしこれ産の法よりさうし
つらうし産のりまよとトと固と搦とらうし産後
さうしつらうし胞搦し小便淋瀝し小便不淋の病
とまよさうしつらうしつらうし産能つらうし
○陳自明の記より産能のり
胎熱つらうし或る産
胎のりつらうし或るのり

子腹中よ死しむたなりとつり 薛己の病は死沉
まふものには胃の字終つるなり 體を熱くして
そのいふ字むらりなりとつり 舌下の方よ控ま
ぬらぬらなるものありしは舌あつてのくどよ控氷
りつりよ冷てあさうれくさむものな母まよ
死にけり候なりとつりめくりとつり死あつて
まのまよとつりとの病とまのいよとつり醫書
ゆいぬいぬいぬい

○疎自閉の流よ産婦面のく舌あどめれ
母活子死とつり舌は俱よあどと延沫と吐
そのな母まよ死とつり舌舌舌のどと沫とつり

あつりつり母死して子活らなりとつり 薛己の
病は凡産婦の面あつてこのものなこれ業字流通
とつり母活らり候なり舌と青あこれ妊脈の
絡終つるなり子死とつり候なり産婦唇は
とつり青あつり業字の字終つるなりよ中産
沫と吐とのい舌脾胃の字終つるなり母まよ
死とつりつり又産婦面と舌と皆舌と痰沫と吐と
そのなこれ産婦の業字とつり後して胎字位上
りり候なり母活らり母死とつり若子と産下して
と母らり死とつり舌とつり舌の醫書を
法とつりあつて舌とつり舌とつり

これより用ひて用ひるゝ病家も平日を毒
のこらるゝ病のりともなるは生れ死の二つ
のけり来るこゝろ長治候よりと終てこゝろ
ろよりこゝろ鳥全敷一字神女蛇胎を蟬退敷
種々の不効なれ婦人全方女科準繩を裁り
○産婦胎服中よ死してこゝろは括凡の甲あそ
あそこ中厚の鼻とあはれものよ平胃散一帖
水各半を煮て入煎して煮盡とれ一帖の末
二液と入くゆてこゝろ煎てあそめこれと服し
胎とれらりりるゝなりあよるゝりひ方よ
外なるゝとゆらる茶うて産婦よ実のいゆよ

こゝろより

○婦人良方よ産婦時よ臨んく湯として水と飲ん
白蜜一匙とりのり湯よと服とくそらとらよ
くこゝろ
○婦人良方よ産婦時よ臨んく湯として水と飲ん
と煎てしそと茶飲こらるゝ湯より煎て
あそて飲たりとらりるゝ湯とらそと
と煎あそこゝろ血凝滞して難産とらるゝ
○婦人良方よ産婦時よ臨んく錢紙とらるゝの
と稠粥軟白粥の類と食らひて一乳溜と堪く
字力とらりくはるゝりこれ便紙糞尿のそらひ

の消化しぬこと物に食せしむるは産の時に
 と用りしきき海くして脚虚して消磨しるこ
 とありしは産後ととくハ腸食のやましとま
 らんとまうりお約の風俗にて産の時の力よ
 く食ととめされしありしは堅硬なる物
 或る味食物と産物ありしはあよし焦通せし下
 焦りしはしるは産後ととりしは能く
 つきりあり



と血ひききし漸れく腫るるのくゆせは必難愈
しあらるるのくゆりわゆるの玉取海唇のそらひ
符と用らるるのくゆりあはるるのくゆり水り約と
りて用てしと或は毒しとものハ燈射り符ハ紅
じと毒し一穂本の穂汁よも用てしとひ乳脈
通てしゆものよハ毒の湯とせしとらひ腹痛と
らものよハ毒の穂汁或は穂の本ハ毒汁とせ
し用らるるのくゆりあはるるのくゆりせしとゆり
り一鉢とせしとらるるのくゆり一痛飲せしとゆり
よまらるるのくゆり神符と用らるるのくゆりあはるるのくゆり
井水と清酒のくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆり
井水と清酒のくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆり

て用てしとらり

○女科準繩は産物付よりんく腰脇腹のそらと毒の
くゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆり
のくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆり
よ力と用てしとらるるのくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆり
は児子門のくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆり
腹りよとらるるのくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆり
錠出し一腰腹のそらりよとらるるのくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆり
或は毒のくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆり
薬のそらりよと用らるるのくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆり
とらるるのくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆりあはるるのくゆり

老婢と云ふんて産婦の腰と云う一ひらりこの
 腰と云ふ一ひらりよなれらるものハ腰一
 能くそのねらひく抱く一みそりよ腰と云
 引あくるゆさるれ婢の鬢よ抱と一とてさうく
 してつごて一吐草のとよま痛綿のそらひと
 く一をさの付高ハ産母をく一と云ふ
 泰産の渾よ産母と云ふまてお付一みそりよ
 のとら一うは眼と云ふまてみそりよはあやう
 つは産神と安神一とて付まはし一付い
 産安或侍人ゆれサ一おとさかとのせ
 産母とて好う送とれと腰見るらつといひら
 五三十一

うとこれらら産婦の腰と云う一ひらりこの
 今なりよく一おとさかとのせ

婦人來草書下六終

